



くるめ見守り通信

第5号

平成31年2月発行 久留米市健康福祉部地域福祉課
電話：0942-30-9174 FAX：0942-30-9752



この通信は、「くるめ見守りネットワーク」に協力していただいている皆さんに、見守り活動や「くるめ見守りほっとライン」への通報の状況などをお知らせするものです。

それが大事。あなたの気づき —気づきから支援へ—

久留米市では、高齢の方も、障害のある方も、お子さんも、誰もが住みなれたまちで自分らしく暮らし続けることができるよう、見守りネットワーク事業を推進しています。現在、106の協力事業者、地域で見守り活動を行ってくださっている方たちと連携をとりながら、事業に取り組んでいます。

平成30年4月1日～平成31年1月31日までで、36件の通報が寄せられました。そのうち安否確認に関する通報は33件で、その中の1件が救出に、1件が適切な支援につながりました。

ご近所さんから

《通報の内容》

近隣の一人暮らしのAさんが、最近「腕がしびれる」「ほとんど歩けず、家の中を這って移動している」と言っていた。週末の生活が心配なので、民生委員さんに見守りをお願いできないだろうか。

《通報後の対応》

担当民生委員、担当課、地域福祉課でAさん宅を訪問。Aさんは在宅だったが、やや衰弱しており、生活困窮の様子がうかがわれた。Aさんの近況や困りごとを聞き取り、Aさんの助けになりそうな支援機関を紹介。Aさんの意向を確認しながら支援機関と連携し、支援を行った。

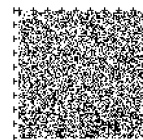


この事例のポイントは？

ご近所の方の「さりげない見守り」や「ちょっとした声かけ」が“気づき”につながり、「ちょっとしたおせっかい」で見守りほっとラインに連絡をくださいました。

早期に異変に気づくことができたため、適切な対応や支援につながった好事例でした。

地域の中での『お互いの顔が見える』つながりは、地域での支え合いの大きな力になります。また、ご高齢の方だけでなく、様々な立場の方が顔なじみになるということは、地域で暮らしていく上で「私のことを気にしてくれている人がいる」という安心にもつながりますね！



研修会を実施しました —人々のつながりによる効果—

平成31年1月16日（水）、千葉大学予防医学センターの辻 大士^{つじ たいし}特任助教を講師にお迎えして、「人と人のつながり」をキーワードに、地域での孤立防止についての研修会を行いました。

研修では、様々なデータを用いながら「生前の孤立」を防止するためには、「地域での人と人のつながり」が重要」とお話しいただきました。

例えば、「人と人のつながりと寿命との関係は強い。体重管理や運動よりも強い影響がある」といったお話が出た際には、研修会に参加された皆さんも大変驚いておられました。



講師：辻 大士先生
(千葉大学予防医学センター)



また、辻先生が言われた『**健康華齢**』^{けんこう かりい}（健康に、幸せに、華やかに年齢を重ねよう）という言葉には、多くの方が感動されたようです。

研修後のアンケートでは、「地域での見守り活動の意義を再確認できた」といった意見が数多く寄せられました。今回の研修の内容を、地域での見守り活動などに役立てていただけると幸いです。

久留米市でも、皆さんからの通報内容などの分析を進め、「くるめ見守りネットワーク」の推進に活用していきたいと考えています。

↑ <<研修会の様子>> 約80名の方にご参加いただきました。

生前の孤立防止について一緒に考えてみませんか？

地域福祉課では、出前講座『地域で孤立を防ごう—それが大事。あなたの気づき—』を行っています。この講座では、地域の皆さんと一緒に「孤立に陥ってしまう原因」について理解を深め、地域でのつながりの大切さ、地域でつながっていくためにできることを考え、話し合っています。

5名以上のグループであれば、どなたでも受講できます。

お気軽に久留米市地域福祉課（0942 - 30 - 9174）までお問合せください！

『いつもと違うサインにピンときたとき』

くるめ見守りほっとライン

0942 - 30 - 9 3 3 9

24時間 365日 受付中！

